

令和5年度
学校だより

あおなみ

R5.9.15 No.5
諫早市立小長井小学校
校長 白石 和幸

【第2学期が始まりました。】

2学期がスタートして約2週間が経過しました。感染症等の影響でなかなか全員出席の日はありませんが、どの子どもも無事に夏休みを終えて、少しずつ学校のリズムに慣れてきているように感じます。1日の始業式は暑さ対策のために、「音楽室」で実施しました。※楽器や机を移動すれば、スペース的にも対応可能であることが分かりました。

式の中で、私からは、次の3点を話しました。

- ①めあてや目標を立てましょう！ぜひ、頑張りたいことやチャレンジしたいことなどのめあてや目標を立てて、「えい！やあ！」と実際に始めてください。
- ②「やろう！」と決めたことを続けよう！続けるうちに、少しずつ上手になったり、できるようになったりするはずですよ。続けることで力や自信がつかます。
- ③お友達と仲良くします！お互いにあいさつをしたり、「ありがとう」「ごめんなさい」などの自分の気持ちを伝えたりして、仲良くするための工夫をしてください。

2学期も、この3つのことを頑張って、それぞれ「一歩前進」を達成してほしいと思います。我々教職員も子供たち一人一人の「一歩前進」に向けて、精一杯支え励ましていきたいと思っています。引き続き御家庭と地域の皆様の御協力をお願いします。

【登校日の中止→延期にしていた平和集会の実施】

先週の4日(月)に、8月9日に実施できなかった「平和集会」を行いました。4年生が、事前に戦争について学習したこと(学校の側にある詩碑のことや原爆資料館等の見学等)を通して、学んだこと・感じたこと・決意などを発表してくれました。その後、全校児童で「折り鶴」を歌いました。集会に参加している子供たちの表情は、いつもより真剣でした。集会の中で、「8月9日に、お家で、黙とうをした人はどれくらい居ますか？」と尋ねると、たくさんの子供たちの手が挙がりました。多くの御家庭で、戦争の悲惨さや平和・命の大切さについて学ぶ機会があったことを有り難く感じました。長崎にゆかりのある子供たちには、ぜひ、「平和な世界の創り手」の中心として、それぞれの立場で活躍してほしいと願います。

【多様な体験と価値観にふれる・ふれさせる】

先週の8日(金)に、井崎地区の「古代赤米栽培田」にて、長里小・遠竹小・小長井小の5年生が、柳新田土地改良組合員の皆様に御協力をいただき、「かかし作り体験」を実施しました。6月16日に田植え体験をしておよそ3か月で、苗は成長し稲穂も実っておりました。これも組合員の方々の日常的な水の管理や除草作業(田んぼの中・あぜ道)等々、米作りに関わる世話や仕事のお陰です。今回は、せっかく育った稲穂を害鳥から守るために「かかし」を作りました。地域の方々や御家庭の協力を得て、仲間と共に合計6体の「かかし」が出来上がりました。馬場組合長様からは「どれも凄くユニークな‘かかし’に仕上がっていました！」とお褒めの言葉を頂戴しました。この後、稲や水田の状況と稲刈りの日程の頃合を見ながら「水抜き」の作業を繰り返されるそうです。次は「稲刈り体験」を楽しみに待ちたいと思います。

この様に、学校や教科書だけでは、味わえない・実感が得られない学習については、地域の皆様の協力をいただきながら、体験活動や見学などを実施しています。お陰様で、プロの技を目の当たりにしたり、地域の方々の想いにふれたりすることで、さらに学びを深めることができます。5年生に限らず、今後も、地域のお店や支所等の見学を予定しております。どうぞ、よろしくお祈りします！



「児童代表の言葉」を4年生の M.H さんが述べました。落ち着いた様子で発表する姿がとてもかっこよかったです。



4年生の発表の様子です。地元小長井での出来事や長崎に投下された原子爆弾の事実からいろいろなことを学び、それぞれの想いを伝えることができました。

